

平成 29 年度第 1 回 立川市文化振興推進委員会 会議録（要旨）

開催日時	平成 29 年 8 月 29 日（金曜日） 午後 4 時～6 時
開催場所	女性総合センター・AIM 第 1 学習室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 計画の進捗状況報告 3. 意見交換 4. その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・立川市文化振興推進委員会委員名簿 ・第 3 次文化振興計画 平成 29 年度の主な取組状況 ・文化振興推進委員会テーマについて ・立川文化芸術のまちづくりプラン（2010.8.27 作成） ・「活動の場・発表の場・交流の場の創出」（新たに施設をつくることなく、どんな工夫ができるのか？）『民間施設の視点から』 ・市の主な施設 ・平成 28 年度第 1 回立川市文化振興推進委員会会議録（要旨）
出席者	<p>[委員]（敬称略） 今井良朗（委員長）、酒井美恵子（副委員長）、伊東功、高木誠、中込遊里、堀江けんいち、宮田龍之介、綿引康司</p> <p>[事務局] 渡辺晶彦（産業文化スポーツ部長）、岡本珠緒（地域文化課長）、渡辺昌明（地域文化振興財団事務局長）、柳澤彰子（文化振興係長）、足立香織（文化事業係長）、二ノ宮真輝（文化振興係）</p>
公開及び非公開	公開
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「活動の場・発表の場・交流の場の創出～新たに施設をつくることなく、どんな工夫ができるのか」について、意見交換を行った。
担当	産業文化スポーツ部地域文化課文化振興係 電話 042 - 506 - 0012

1. 開会

- ・地域文化課長の司会により開会。平成 29 年 4 月 1 日付の人事異動に伴い異動があった産業文化スポーツ部長よりあいさつがあった。

[部長あいさつ]

4 月に着任して約 5 か月になる。文化は難しいものだと実感しているが、この委員会に貢献できるよう尽力したい。

- ・年度初めの委員会であるため、各委員より自己紹介があった。

2. 計画の進捗状況報告

- ・委員長より、この委員会では事務局・委員関係なく「さん」付けで呼びあうこと、本日は第三次文化振興計画の進捗状況報告とテーマごとの意見交換を行うこと、会議終了後に希望者はフェアレ立川アートツアーへ参加することの確認があった。
- ・事務局より、資料について確認があった。
- ・事務局より、第三次文化振興計画の進捗状況について資料の説明があった。

[補足説明]

(委員長) 「サンクタスギャラリー」について、補足説明をお願いしたい。

(事務局) 「サンクタス立川」というマンションの 1 階が、ガラス張りで外から見る事が出来るギャラリーになっている。南側に面しているため日が当たり、絵画などの展示にはあまり向かない。利用の窓口は立川市地域文化振興財団。使用料は無料。

(副委員長) 市史編さん事業について説明をお願いしたい。

(事務局) 前回から 50 年ぶりとなる、市の歴史である市史の編さん事業。平成 27 年から 10 年間で行う予定。最初の 7 年間程度で資料編を作成し、それらの資料を根拠に本編を編さんしていく。現在は基礎調査の段階。平成 30 年度に、ビジュアルでわかりやすい地図絵図編を出版予定。次回の会議時に、市史編さんの広報紙である「たちかわ物語」を配布する。

3. 意見交換

- ・「活動の場・発表の場・交流の場の創出～新たに施設をつくることなく、どんな工夫ができるのか」について、意見交換を行った。

[意見交換]

(委員長) まず民間の視点で、A 委員から多摩信用金庫の例についてお話しいただきたい。

(A 委員) 信用金庫として、金融面だけでなく文化面についても地域へ貢献していくことを掲げている。施設としては、国立市に「たましん歴史美術館」、青梅市に「御岳美術館」、立川市の多摩信用金庫本店 9 階に「たましんギャラリー」がある。

ギャラリーでは、多摩で活躍しているアーティストへ展示場所を無償で提供している。作家と地域住民との交流の場にしたいとの思いから大きなテーブルとイスが置かれており、喫茶店のようにゆっくり座って話ができるようになっている。

一定のレベル以上の作家でないと利用は難しい。ギャラリーは50年以上の歴史があるが、若手作家の利用が少ないこと、一般の人に対する知名度が低いことが課題としてあげられる。

市には、ファーレ立川アートをはじめとした北口のエリア一帯をアートの街としてPRする取り組みを行ってほしい。また、多摩地域内には美術大学も多いため、各市単独での取り組みではなく、広域的なイベントやPRが出来ると、多摩地域全体が盛り上がっていくのではないかと感じている。

- (B委員) たましんギャラリーでの、作品の審査は誰が行っているのか。
- (A委員) 専門家である学芸員3人が審査をしている。学芸員の嗜好が反映される部分もある。
- (委員長) 若手作家への場の提供が重要ではないか。武蔵野美術大学には学内に展示場が複数か所ある。現在、その展示場を使えるのは学生だけだが、卒業生も使えるようにできたら良いのではと思う。発表や制作を続けることができる環境を社会全体で作ってあげられると良いのではないか。
- (A委員) 美術大学の卒業生はたくさんいるが、続けていくことが難しい一因は、発表や制作の機会が少ないことにあるかもしれない。
- (事務局) 高齢化の問題といえば、地域文化振興財団が主催する「アートギャラリー展」も高齢化が進んでいる。出品者の平均年齢は60才を超える。今年度、35歳以下の方の出品は2人のみ。立川女子高校美術部の作品展を同時期に行うなど、工夫をしている。
- (委員長) 審査について、若い人が若い人の審査をするような仕組みがあってもよいのではと思う。若手の人たちがいろいろな局面で参加できると良い。
- (B委員) 互いに審査しあうことは良いと思う。高齢化については何が問題になるのか。演出家の蜷川幸雄さんが埼玉県で、全員が70才以上の「さいたまゴールド・シアター」という劇団をやっている。年齢に関係なく、力のある人が集まれば良いのではないか。
- (委員長) 高齢者は自ら機会を探し出すことも出来るが、若い人はそうはいかない。若い人や子どもたちが参加できる仕組みは、もっとあっても良い。
- (A委員) たましん地域文化振興財団が「美術」と「歴史」を扱っている理由は、ターゲットである高齢者が興味を持つ題材だということがある。まち全体で考えるときには、もっと広く考える必要がある。
- (委員長) この委員会もそうだが、様々な方がいて、それぞれ役割が違うと思う。
- (C委員) たましん地域文化振興財団の学芸員の年齢構成は？
- (A委員) 60代後半が1人で、30代が2人。絵画の世界では、経験が物を言うところはあるかもしれない。
- (事務局) たましんギャラリーのスケジュールを確認したところ、アートギャラリー展で20年前に大賞をとった方が展示をしている。学芸員の方も広い視野で作家を選出しているように思う。

(委員長) 次に「文化芸術のまちづくり協議会」について、お話いただきたい。

(D委員) 「文化芸術のまちづくり協議会」の事業から2つご紹介する。

1つは、自主事業の「ワークショップ×ワークショップ edu」というイベント。学生や企業が子どもたちを対象にワークショップを行うイベントで、いわゆる一般の方たちが、アートや文化に接する良い機会となっている。

もう1つは、「立川ビルボード」というホームページを中心にした情報発信。「立川ビルボード」の関係で、商業施設やホテルなどに取材をすると、地域との交流や大学生との企画などを積極的にやっていきたいという思いを感じる。そういうところと会場や集客のためのPRなどで連携することが、場を広げることにつながるだろう。

私は福生市に住んでいるが、西多摩地域の子育て世代は、ほとんどの方が国営昭和記念公園に来たことがあるのではないかと。国営昭和記念公園は、広域的な発信力が強いので、小学生や若手アーティスト、学生などが交流できるイベントを広域連携で行う会場として適している。また、立川市にはビルがたくさんあるので、ビルの屋上で同時多発的にイベントをやると、新しい文化を発信できるのではないかと。飲食店も多いので、飲食店をギャラリースペースにするプロジェクトを展開して集客につなげたり、空き家や団地を一定期間、個展会場に使用してもらったりするのもおもしろいと思う。立川市ならではたとえば、砂川には旧家の大きな屋敷があるので、1日だけでも庭先を借りて作品展示をさせてもらえないか。そういうことが新たな会場確保につながる。

たましんギャラリーはベテラン作家の展示になってしまうという話があったが、カラーがあっていいと思う。資料を見て、民間のギャラリーやホールが立川にたくさんあることを初めて知った。ゆるやかなネットワークができて、それぞれの個性を活かしつつ発信などが一緒にできるとよいと思う。

多摩大学の教授で、『ロッキング・オン・ジャパン』という雑誌を創刊した方から聞いた話だが、京都の「未来フェス」というイベントは、震災後、京都に移り住んだアーティストが、個別でやっていたワークショップやイベントをみんなで同じ日にやった方がもっと楽しくなるということで始まったものだそうだ。立川周辺でもいろいろな方がいろいろなところでイベントや個展をやっているのだから、同じ日にそれぞれの場所でやろうという呼びかけができればおもしろいと思う。

(委員長) 既にいろいろアイデアがでていっている。そうしたことが、どうにかたちで実現していけるかという話になっていくのだと思う。

(B委員) 昭和記念公園で、何かやったことはあるか？

(D委員) くわしくは知らないが、石田倉庫の方が昭和記念公園で何かやろうとして、途中でダメになったことがあると聞いた。国営公園なので現場でOKでも、国土交通省の方でNGという判断になることがあるようだ。ただ、今の現場の方たちは、もっと地域と関わりたいと考えているようなので、活用しない手はないと思う。

(事務局) 文化協会では毎年、市民文化祭の際に国営昭和記念公園の花みどり文化センターを利用しているのでは？

(E委員) 利用している。指定管理者は相談に応じてくれるが、国土交通省はいろいろと規定があり、市民文化祭のようなものなら問題はないが、特殊なことをやろうとすると難しい。ロケーションとしては非常にいいのだが。

バレエの分野では、八ヶ岳や相模湖、パルテノン多摩などでも、屋外公演をやっている。国営昭和記念公園でも過去に薪能などの公演があったのだから、池をバックにバレエが出来ないかと目論んだことがある。実際やるとなると、実現までには相当のエネルギーが必要で、実行委員会などを立ち上げなければ難しいかもしれない。

一度実績ができれば、次からはハードルがずっと下がる。小規模でもいいのできっかけをつくることができれば可能性はある。若い人たちは挑戦してみるといい。私も若いころは、怖いもの知らずで、草月会館や六本木の自由劇場などに企画を持ち込んで踊ったことがある。

私の若いころは、唐十郎や串田和美の時代。今は、後進を育てているが、子どもたちは学校が忙しい。受験で辞めてしまうが、一人前にできるか保障はできないので止めることはできない。

有望な子どもを10人ぐらい外国に送り出している。日本ではバレエやオペラで食べていくのは難しいが、外国では人口30万人以上の都市にはオペラハウスがあって、楽団やバレエ団、劇団があり、地域で応援しているので、職業として成り立っている。ハンガリーやルーマニアなどでもそう。

各都市には演劇やパフォーマンスの祭りがあり、それが大きな経済効果を生んでいる。日本には、国民文化祭などはあるが、残念ながら、そこまでの文化は育っていない。多摩地域だけでも、そうなれたらと思う。

多摩地域と都市部の格差も問題だ。オリンピックはほとんどが都心での開催で、カヌー会場の建設には何百億もかけている。多摩地域での東京都の大きな事業は、モノレールが最後ぐらいではないか。

(委員長) E委員の話のように、文化に接する場所が地域に必ずあるということが大事。ヨーロッパには、子どものころからそうした環境がある。以前の委員会でも触れたが、ヨーロッパの人たちは、美術館にしても劇場にしても「私たちの街の〇〇」と言い、自分たちが支えている意識がある。立川市には、そういう街になる可能性があると感じている。「私たちの街の〇〇」「私たちの街の△△」…そういう場が繋がっていけばよい。

先ほどD委員の話に出たように、商業施設は文化に非常に興味を持っていて、大学にもアプローチがある。いろいろなところがいろいろな形で求めているので、協力して、ここでやったことをあちらでもやる、あるいは同じ日にやってみる、というのはおもしろいのではないか。

今日のテーマに関わるが、何のためにやるのか、なんでやるのか、何をもってやるのか、媒介になるのは何かを丁寧に考えていくことが大切で、そうした議論を経て、よりよいつながりを作っていけるといいと思う。

B委員からたちかわ創造舎について、お話を伺いたい。

(B委員) たちかわ創造舎は多摩川小学校の跡施設で、場所は富士見町6丁目、昭島市・日野市との市境にあり、近くを多摩川が流れている。観客を呼ぶには不便な立地。廃校になった当初は、たまがわ・みらいパークとして活用されていた。2年前に、たちかわ創造舎が管理するようになり、現在、たまがわ・みらいパークは、B棟（特別教室棟）で活動している。

たちかわ創造舎は、インキュベーション・センター、フィルム・コミッション、サイクルス・テーションの3つの事業をやっているのが特徴。フィルム・コミッション事業は、学校を使ったCMやドラマの撮影利用のこと。面白いのは、サイクルス・テーション事業で、多摩川沿いがサイクリングロードなので、サイクリストたちが休憩に立ち寄って、創造舎内の店舗で装備を購入したりコミュニケーションしたり、シャワールームを使ったりできる。私は、インキュベーション・センター事業のシェア・オフィス・メンバーの4つのうちの1つに所属している。4つのうち3つは、演劇系の団体で、もう1つは個人のチョークアーティスト。演劇に関して言えば、たちかわ創造舎は発表する場ではない。稽古やワークショップなどはできるが、小学校の普通教室で空調もないので、たくさんの人を呼びづらいのが課題。月に1回、乳幼児や小学生向けに「放課後シアター」という上演をB棟（特別教室棟）のドレミホール（旧音楽室）でやっている。ドレミホールは、会場として悪くないが、すごくたくさんの人を呼んでロングラン公演という感じではない。

(委員長) たちかわ創造舎は、私も興味があって、何かやれればと思ったが地の利が悪い。シェア・オフィスも見学したが、1日過ごすと考えると決していい環境とはいえない。中途半端さが今の不満につながっているのだろう。比較して申し訳ないが、アーツ千代田3331などは建物を丁寧に整備しており、ギャラリーなどで質の高い展示ができる。たちかわ創造舎も、もう少し丁寧に改修していれば活用の幅が広がったと思う。

発表の場がないという話は、それなら代わりに近くの間とつないでうまく機能させていくことが大切だろう。うまく連動するには、市は何をすればいいのか、民間は何をすればいいのか、大学なども含めて考えていけば変わっていくだろう。今日私がお配りしたのは、2010年8月に、当時の新文化振興計画策定委員会に提出したもので、その時は各委員が個人で資料やデータを持ち寄って意見を述べ合った。委員がこういう形で資料を持ち寄って議論をするだけでも、ずいぶん変わる。改めてこの資料を見ると、旧多摩川小学校が重要な拠点となることを意識している。結果的に今、たちかわ創造舎になっている。立川市には、他にもまだまだ使える場所があるはずで、有効に活用すればもっと違う形で発展できるのではないかと思う。そういうことを具体的に考えていくときに、何のために、どういうものを媒介にするのか、議論を深めることが大切だ。

(事務局) 前の前の部署で、旧多摩川小学校の活用の検討に関わっていた。生徒数の減少から南富士見小と多摩川小が合併し、南富士見小の場所に新生小を新設して、多摩

川小学校を廃校とした。廃校後、地域の人たちが、たまがわ・みらいパークとして活用を図ったが、体育館・校庭も含めて全てを管理・活用することはなかなか難しかった。検討の結果、たまがわ・みらいパークはB棟で活動し、全体の管理と残りの部分の活用をしてくれる団体を、インキュベーション・センター、フィルム・コミッション、サイクル・ステーションという3つの事業方針を掲げて、プロポーザルで選んだ。

演劇を活用した提案が評価されてアートネットワーク・ジャパンが選ばれたが、体育館については地域団体の利用があるため、豊島区のにしすがも創造舎のように劇場として活用することはできなかった。たちかわ創造舎は、たまがわ・みらいパークをはじめ、地域と非常によい関係を築いている。

旧多摩川小学校を文化の拠点とする明確な意図が最初から市にあったかということ断言できないが、現在、たちかわ創造舎は、文化の発信拠点として、財団や地域文化課とも積極的に連携しており助かっている。施設の改修については、財政状況が厳しい中であそこまでしかできなかった。

今日のテーマの場所・スペースについては、高木委員が言われたように、ビルの屋上や砂川の屋敷、飲食店など、いろんな場所があると思う。そういった場所を利用する際に、橋渡しに行政が入ると話が進みやすいのかもしれない。正式な手続きでやろうとするとハードルが高いので、ゲリラ的に動いた方がおもしろいことができるのかなという気もしている。

(委員長) 小さなつながりでも少しずつ膨らんでいけば、変わるだろう。

(F委員) 多摩信用金庫とたちかわ市民交流大学で連携して何かすることはできるか？

(A委員) 多摩信用金庫では、たまらふ俱樂部という教養講座をやっている。たましん地域文化財団の精神から言うと、地域に貢献したい。市がそういう形で何かするというのであれば、できることはあると思う。ただ人手はあまりない。

(F委員) 市民交流大学では、国立音楽大学の協力でレクチャーコンサートなどもやっている。

多摩信用金庫の力を借りることができれば、講座の幅を広げることができる。市民交流大学の推進委員もやっているのも、もし可能性があるならば、情報として委員会に伝えたい。教える方の情報が少ないので、そこを補っていただけるとありがたい。

(A委員) 私たちが主催で、東京都の下部組織と一緒にやっている歴史講座があるが、講師は、たましん地域文化財団の職員ではない。大学の先生や市の歴史民俗資料館の学芸員など、専門家をお願いすることでレベルを担保している。

(F委員) 文化振興計画の進捗状況についての資料に関連して、市民文化祭や学習館の文化祭など、各々が一所懸命にやっているのに参加者が右肩下がりで減っていることにショックを受けた。高松地域のことしかわからないが、地域のコミュニティに関して、学習館や自治会、子ども会、児童館など、横のつながりがあまり見られない。財団や市が何かやるときに、学習館や自治会などで活動する地域団体を巻

き込むことはできないのか。ちなみに高松学習館は、財団の協力で11月にコンサートを企画中で、ムーサにもPRしてもらおうが、もっと広い目を見て連携が進むといいと思う。

伝統的なものの伝承にしても、おはやしや太鼓は、自治会単位で子どものグループがたくさんある。こういうものを紐づけることで、活性化がすすむのではないか。高齢化がなぜ悪いという話もあったが、子どもの時から巻き込むことで、未来に向けてのつながりができる。それで全体のバランスが取れると思う。

(委員長) 3世代交流は最終的に理想。伝統文化にしても、伝承者と子どもたちのお母さんやお父さんが入ってつながる。そういう流れができるといい。
そろそろ時間になりました。最後に副委員長、お願いします。

(副委員長) 活躍の場や交流の場を考えたときに、そこに来る人をどう集めるか、どう関わっていただくかが、すごく大事だと感じている。大学生と話すと、情報の発信や取得の仕方が、私たちと全く違う。スマホ1つで魔法のように広域とつながることができる。グループのようなものを作って、ツイッターでパッと集まることのできる。

そういう世代でも、いいものには足を運ぶ。立川市は、すごくいろいろなことをやっているのにつながらない・広がらないと言うときに、発信も含めて考えともっとできることがあるのではないか。

(委員長) 現代においてはSNSを有効に使っていくことも、つながるためには重要。
本日の意見交換はこれで終わることにしたい。今日1日で答えが出るわけではない。
最初のテーマとして「場」を取りあげたが、関連して、子どもについて、アーティスト支援について、議論を掘り下げられればと考えている。

4. その他

- ・事務局が、この後見学予定のファーレ立川アートについて、概略を資料に基づき説明。
- ・委員長のあいさつにより閉会。